

視 察 報 告 書

報告者氏名 海老原 功一



1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町
「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市
「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

(1) 子ども議会について

～町勢概要～

能登町は、平成17年3月、能都町・柳田村・内浦町が合併して誕生した。能登半島の北東部に位置し、北は珠洲市と輪島市、南西は穴水町に隣接し、東と南は富山湾に面して海岸線が続き、海岸線の大半は能登半島国定公園に含まれる。

平成15年7月能登空港が開港し、東京から1時間あまりで能登町に訪れることが可能となり、観光施策に力を入れている。

人口は、令和4年5月1日現在で15,850人。面積は273.27km²。

本市とは、合併前の旧内浦町の時代から、長年友好的な交流を続けていたが、更に親交を深めるため、平成24年1月に姉妹都

市の盟約を締結した。

～事業概要（子ども議会について）～

「能登町子ども議会」と題し、目的を「中学生模擬議会を体験することにより、議会の仕組みについて理解するとともに町政に興味関心を持ち、社会への参画意識を高める」としている。

時期は、夏休み中の8月に実施。参加者は中学校に在籍する生徒で各中学校2～4名。議長職も各中学校輪番制で生徒が担当しているとのこと。

きっかけは、平成22年度に当時の教育長から町校長会へ提案し賛同され、開催されることとなった。

主なスケジュールは、6月に学校へ案内を送付。7月に質問のとりまとめ、8月、通告書に基づいて関係各課の調整、町長ヒア、子ども議会開催。10月に広報への掲載、感想文集の配付。

また、地元テレビ局で子ども議会の様子が放映されている。

～事業概要（タブレット議会について）～

今般、能登町議会において、タブレットを導入したことを耳にし、今回の視察に合わせて、簡単なお説明を依頼したところ、快諾いただき、議会事務局職員からお説明をいただいた。

議員・執行部の3大メリットとしては、「議案書等の差し替えが容易」、「ペーパーレスと経費削減」、「正々堂々とPCを議場へ持ち込める」ことを挙げられていた。

導入段階で抑えておくべきポイントとして、「執行部の理解と協力が不可欠」、「議会と執行部で構成する検討委員会を設置」、「議案資料の『作り其の物』を見直し」の3つを挙げられ、具体的な取り組みとしては、執行部の課長級と合同で会議を設置し、協議を行い、資料をA4ヨコに統一した。従来、タテヨコ混在してい

たが、説明に合わせて、タブレットをタテヨコに動かすことは説明に間に合わず、現実的ではないとのことであった。

～所感～

まず、町長や副町長、教育長、市議会副議長、議会運営委員から熱烈な歓迎を受けたことに感謝を申し上げる。また、今般、能登町議会議員選挙があり、その労を労った。

子ども議会については、中学校3年生を対象にしているところであるが、中学校2年生では、「私が町長だったら作文」を実施しているとのこと、町政に関心を寄せられる継続された取り組みで工夫されており、感心した。

また、首長や行政主導ではなく、教育委員会主導で行われていることから、学校教育上での目的を明確にさせていることに特色があると思う。子ども議会の運営には教員の協力が必要不可欠である。この方法を採用すると、学校現場にとってやりやすいものであると感じた。

タブレット議会については、議会事務局職員が熱意をもって取り組まれているように感じた。真剣勝負の議会の場においては、紙ベースでの説明になれている議員にとって、資料の媒体が電子化されることはかなりのストレスであると思われる。先方の議員の胸の内を質問したところ、四苦八苦している様子が伺え、少しほっとした。現在、議会運営委員会において、協議をしているが、具体的な話になればなるほど、議員間の温度差の調整、すり合わせには難しさを感じている。私は、始まり（導入時）と終わり（完全ペーパーレス化後）が重要であると考えており、改めて、議員間の意見交換、討議を重ねたいと思った。

(2) 輪島の未来を考える子ども議会について

～市勢概要～

能登半島の北西に位置し、歴史的には海上交通の要衝として栄えるとともに、江戸時代中期以降漆器業（輪島塗）が盛んになった。人口は24,170人（令和4年11月1日現在）。市域は426.32km²。

～事業概要～

テーマは「子どもたちが考える輪島の未来」とし、対象者は市内9小学校6年生児童（各学校1～2名）。開催時期は夏休み期間中の8月、場所は市議会議場において開催される。

主なスケジュールは、例年8月5日頃、5月下旬に学校に参加者を募集し、質問項目の照会を行う。

議会運営（議長職、副議長職、議会運営員職、局長職）も児童が行っていることに特色がある。

小学校6年生を対象にすることで、「輪島の未来を考える」機会として意図しているとのこと。中学生になると現実的な提案（学校施設の修繕や通学路の不具合の解消）となり、議員が行うものと同様のものとなり、「夢を語る」ことから乖離してしまうとのこと。

導入当時は、「夢を語ってほしい」との当時の市長の希望であったが、（例えば、大型リゾート施設の誘致など）現実離れした提案がなされることと（学校施設の不具合を直してほしいなど）現実的な提案（夢を語っていない）で揺れ動いており、質問事項の調整に難儀していたことがあるとのこと。

～所感～

きっかけは、当時の市長のマニフェストに掲げ当選され、実施することとなったとのこと、政治主導で始まった。現在はコロ

ナ禍においては、中止しているとのことで、今般の教員の働き方改革を勘案すると、再開に躊躇する様子が伺えた。また、当時の市長が導入したことで政治色が付き、後に市長が変わること見直しされやすい立場に置かれていると思う。前日の能登町の「子ども議会」は教育委員会主導であり、縮小や廃止の話は出なかったのと対照的である。首長や議員が提案するには、現場職員の理解がなければ、肯定的に継続されないと再認識した。

視 察 報 告 書

報告者氏名 齊藤 真理



1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

本市においての「子ども議会」の開催について調べてみると、今から22年前、平成10年2月に、市内小中学生の代表31人による「子ども議会」が開催されている。私が市議会議員になる前の時期であったため、不勉強ながら、今回はじめてその経緯を知った。

この「子ども議会」は、流山市の次期長期構想に小中学生の意見を反映させ、未来を担う児童・生徒の新鮮な発想を取り入れるとともに、児童・生徒に議場を使用してもらうことにより、議会の仕組みとその運営についての体験を通し、民主的政治がどのように進められるかについて、理解を深めることを目的として開催されたもの。答弁を執行部が行っていることから、執行部の提案での開催だったと思われる。その後、平成28年7月に、流山市議会主催で、市内の県立高校にご協力を頂き高校生の代表12名が登壇しての「高校生議会」を開催した。この時は、開催の1年

前に、公職選挙法改正により、選挙年齢が18歳以上に引き下げられたこともあり、高校生世代に広く政治や選挙行動に関心を持ってもらう意味からも、有意義な機会となった。しかし、残念ながらその後、継続的な実施とは至っていない。

しかし、「子ども議会」の開催による経験は、流山の未来を託す子どもたちの学びにとって、大きな意義を感じている。

今回は、継続的に「子ども議会」を開催してきた、能登町と輪島市を視察先とし、今後、本市でも継続実施に繋げていくためのヒントを学ばせて頂くために視察させて頂いた。

(1) 石川県能登町「子ども議会について」

能登町では、教育長自らご説明頂いた。

能登町の児童数は734人。流山市の約20分の1

少子高齢化は進んでいるが、「能登の地に学び、未来を拓くたくましい力をはぐくみ、一歩前へ進む人づくり」を教育の基本理念に掲げ、能登の豊かな自然と文化、伝統を取り入れた教育に取り組んでいる。その学びの一環として能登町では、平成22年、町校長会からの提案により「子ども議会」の開催が決定した。平成22年の第1回子ども議会開催から、令和元年第10回開催まで、年1回継続して実施されてきた。令和2年度はコロナ禍により中止となったが、令和3年度からは再び実施されている。

子ども議会を開催することで、生徒及び教師が町のことについて真剣に考え、能登町の未来について語り合う体験するとともに、教師が議会を知り、さらに、ライブ配信で町民にも議会に関心を持ってもらう効果が期待された。

能登町の「子ども議会」の概要

参加対象：中学生（市内中学校4校から2～3名を選出）

答弁者：町長、副町長、教育長、各課長、事務局長、支所長、担当課長

引率教員：4名

予算：無し

子ども議会の主なスケジュール

- 4月 開催日程調整
- 6月 学校へ実施要項配布
- 7月 質問の取りまとめ
- 8月 関係各課と調整
答弁書作成
町長ヒアリング
招待者案内
子ども議会開催（有線テレビ ライブ中継）
- 10月 「広報のと」特集記事掲載
感想文集記付

本市で開催された過去2回の子ども議会との違いは、提案が、執行部でも議会でもなく、教育者側からであること。

本市で継続した実施に結び付かなかった要因は、開催理由の違いもあるが、開催を継続するには、学校や教職員の協力が欠かせない為、継続実施の声が上がらなかつたからではないかと感じる。

開催し続けることは、学校・教職員にも、かなりの負担があると想像するが、それでも開催し続けている能登町は、大変であっても「子ども議会」を開催する事による学びに、町ぐるみで重きを置いているからなのだと感じた。

本市で「子ども議会」を再開し、継続的に実施していくためには、児童・生徒数の多さや、執行部、教育委員会の積極的関与と協力が欠かせない。どのような形であれば実施可能なのか、今後とも研究していきたい。

（2）石川県輪島市

「輪島市の未来を考える子ども議会について」

輪島市は、平成10年、市長提案で実施し、令和元年まで、21回開催された。（令和2年～4年はコロナ禍により中止）

開催当時の市長が交代したこともあり、あり方を含め見直しを

検討中との事。

能登町では中学生3年生を選出していたが、輪島市は、小学校9校から1～2名、参加者募集を行い実施。

開催時期は、例年8月5日頃

*例年夏休みに開催してきたが、負担が大きく、教員の働き方改革の観点から見直しも必要との事。

輪島市では、小学6年生を対象としている。

市長が発案した理由の一つが、「子どもたちに将来の夢を語ってほしい」という思いであることから、小学6年生が最適との判断との事。

能登町、輪島市、どちらも、実施による学びの効果は実感しているものの、継続については、やはり難しい面もあるようだ。輪島市の児童、生徒数は能登町の2倍強。継続実施には、かなり教師の負担も有り、課題の要因は、児童、生徒数の規模も関係あるように感じた。

今回、能登町、輪島市の議員の皆様、視察項目をご説明頂いたご担当の皆様には、大変細やかなご配慮を頂き、心から感謝申し上げます。

視 察 報 告 書

報告者氏名 石原 修治



1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

(1) 能登町「子ども議会について」

能登町は、平成17年3月1日、能都町・内浦町・柳田町が合併して誕生し、少子高齢化が進む中で現在人口15,850人である。平成22年度の町校長会において、教育長から「能登町子ども議会」開催を提案したところ賛同を得て、現在毎年開催されている。その趣旨は、能登町の中学生が模擬会議を経験することにより、議会の仕組みについて理解するとともに能登町政に興味・関心を持ち、社会への参画意識を高める。そして、郷土を愛する心や未来を拓くたくましい力を育てることをねらいとしている。また、生徒及び教師が町のことについて真剣に考え、能登町の未来について語り合い、さらには、ライブ放送で町民が議会に興味関心を持ってもらうことも期待している。

毎年8月に開催され、場所は庁舎4階の議場にて行われる。中学生が議長、議員を務め、執行部の町長ほか課長らが質問に答える形式である。

所感としては、少子高齢化や人口減少が進んでいる中、10年後、20年後のまちづくりにおいて、人材育成・人材確保は将来的観点からも重要な事であり、子ども議会はその意味からも興味ある行いであると考えます。流山市も「次期長期構想」に小中学生の意見を反映させ、未来を担う児童生徒の新鮮な発想を取り入れるとともに、議会の仕組みとその運営についての体験を通して民主的な政治がどのように進められているかについて、理解を深めることを目的として、平成10年2月に流山市の小中学校の代表31名により子ども議会が開催されているが、刻一刻と変化している社会情勢を考えると定期的に「子ども議会」の開催を検討すべきではないかと考える。

(2) 輪島市「輪島の未来を考える子ども議会」について

輪島市の「子ども議会」は、平成10年に当時の市長の政策に関する広報・広聴の一環として開催され、以後、令和元年まで21回実施された。その目的は、小学校児童を対象に市政やまちづくりについて、興味と理解を深めてもらうとともに、自分たちが輪島の将来を担う市民の一人としての自覚を持ってもらうねらいがある。開催方法は、例年夏休み中の8月に市議会議場で開催され、「子ども議員」としてテーマは「子どもたちが考える輪島の未来」、質問や提案をする。これに対し市長が答弁を行う形式をとっている。また、会議を進めるために必要な議長、副議長、議会運営委員会、議会事務局長の役割も担っている。

子ども議会終了後には、子ども議員から市長・教育長に「誓いの言葉」、市議会議長には未来の輪島のために必要なことをまとめた「要望書」を手渡ししているということで、良い取り組みであると考えます。コロナ禍により2年間実施できなかったことは理解するが、市長が交代したしたことにより、在り方を含め見直しを図る観点から本年度は実施されなかったことについては、今後開催されないことのないよう、在り方の見直しをされ再開されることを願う。

所感としては、能登町の「子ども議会」と同じではあるが、付け加えるならば若い世代の政治離れや投票率の低さの観点からも、

一番身近な議会との繋がりから、子どもたちに郷土愛の醸成を図ることも我々大人に課せられた使命であると考える。

視 察 報 告 書

報告者氏名 西尾 段



1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日(木)～同11日(金)

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

流山市の姉妹都市である能登町と同じ県内の輪島市に視察を行った。

能登町では「子ども議会」と題して中学生による議会を年に1回、夏休みに実施している。小学生や高校生を入れていない理由として、小学生ではまだ政治や議会の仕組みを理解しづらい事、高校生は町の外へ出ていく子が多い事が理由だそうです。逆に中学生は中3の社会の授業で公民を学ぶことや能登町の中2の子たちは「私が町長だったら」というタイトルで作文を書く事になっており、町議会を意識させる取り組みも毎年行われている事から中3生に絞って子ども議会を開催している。子ども議会で取り上げられたテーマとして、通学路が暗くて危険だったところに防犯灯が付いたり、防犯カメラが設置されたりした。学校によって生徒数が大きく異なる事から、生徒数に応じて子ども議員の数も決められており生徒数が多い学校は子ども議員も多く、生徒数が少

ない学校は子ども議員も少なくなっている。

年間のスケジュールとしては4月に日程調整、6月に実施要項配布、7月に質問取り纏め、関係各課調整、答弁書作成、町長ヒアリングなどしっかりと時間をかけて実際の議会と同様に取り組んでおり、答弁は原則町長自ら行っているため実際の議会よりもレベルが高い部分もある。総じて内容的には非常に良い取り組みになるものの、学校側の負担も大きく、効率化を希望する声もあがっている。

続いて最近タブレットを導入した能登町議会の議会事務局からも説明を頂いた。本音と建て前を織り交ぜて話して下さりよく理解できたと同時に課題も見つかった。理想を追い求めすぎない事、反対派の意見も良く聞いて落としどころを調整する事など、良く配慮したことで進められたと同時に、基本的には縦書きである議会関連の書類を全て横書きに変更してタブレットでも見やすく使い易い環境を作った事が導入実現した大きなポイントだったと受け止めた。議会側は資料が見やすくなったり検索出来て資料が探し易くなるなどメリットが多いが、執行部側としても議案書をはじめとした資料の差し替えが用意だったりペーパーレスが進むことによる経費削減など、大きなメリットをPRして協力を貰えたことも大きな要因である。流山市でも導入を進めるべきと考えるが理想だけを追い求めるのではなく少しでもペーパーレス、経費削減につながる様に歩み寄りながら持続可能なやり方の落としどころを追い求める事が重要と考える。

2日目は同じく石川県の輪島市における「輪島の未来を考える子ども議会」について視察を行った。能登町と異なり輪島市では小学6年生を対象に実施しており、毎年夏休みの第1週頃に行っている。中高生を入れていない理由としては中高生だと現実的な話になってしまい、「夢を持って輪島の未来を考える」という趣旨から外れてしまう事が多い為、小学生に絞って実施しているそうだ。

当初この「輪島の未来を考える子ども議会」については市長の発案で始めた物で執行部が力を入れて取り組んでいたが市長が交

代した事で有り方を含めて見直しを計る観点がある事とコロナ禍であるため本年も実施しなかった。小学校が9校あり、各校から1～2名選出され全体で約12名の子ども議員が選出される。

ほとんどの学校がクラスの子ども達で輪島の未来について語り合っ、どの様なテーマが良いか、どの様に話すのが良いかを決めて代表者が議会に出て来る形である。実際に採用された例として、「マリントウン子どもの広場にゴミ箱を設置して欲しい」との質問に対して執行部内で議論し、難しいとの意見も多い中設置をした。その後の経過を見ていると分別がされなかったりマナーが悪化したりする等の弊害も発生しており撤去が検討されている様子。この様になる事は簡単に想像できたと思うが、子ども議会で提案されたことを反対意見がありながらも実現したことは大いに評価できるものとする。

第一回目の卒業生が30歳になっているが、市議会議員や市の職員になった事例は認識されていない。また、議員のなり手不足がある事から子ども議員の経験者が議員に立候補する様に促す事があっても面白いと感じた。

最後に、能登半島の1町1市を視察した中で移動中にほぼ全ての建物が艶のある黒い瓦だった事に興味が湧き、職員や地元の方に聞いてみたところ、地元では「能登瓦」と言う艶のある黒い瓦しか作っておらず他の瓦は中々手に入りづらいとの事。建物をわざと統一している訳では無かったが実際には統一感のある街並みで市街地でも郊外でも一体感のある街並みに見えた。

また、輪島の朝市や能登町の商店街を見て回ったところ、通行止めのルールや道路舗装のやり方など、非常に参考になる事も多く、江戸川台東口商店街の再整備にも活かして行きたい。

◆ 能登町の旧市街の様子



◆ 「能登瓦」の統一感ある街並み



■ 輪島市の朝市の様子(出店場所と通路を舗装の色で分けている)



■ 朝市の時間帯に合わせた通行止めの表示



以上

視 察 報 告 書

報告者氏名 坂巻 儀一



1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

(1) 能登町における学校教育の取組として、・まちの未来を担う人材として子ども議会・学ぶことへの興味、心豊かな人間性として海洋教育（SDG's）、防災教育・郷土への愛着を醸成として久保和紙の卒業証書・国際社会への対応力としてGIGAスクール構想、外国語教育が挙げられている。その中で今回の視察では子ども議会の取組について教育長より説明がなされた。

平成22年度に教育長の提案により子ども議会の開催がなされ、趣旨として、子ども議会を開くことで、生徒及び教師が町のことについて真剣に考え、能登町の未来について語り合うことと、教師が議会を知り、またライブ放送で町民が議会に興味関心を持つことを期待された。

途中コロナ禍により中断を余儀なくされたが、令和4年までに12回の子ども議会が開催されていることは一過性ではなく継続されていることに子供達、教師を含め、町民の信頼

を得ていると思われる。実際の子ども議会の様子を録画資料で拝見したが、質問はもとより子供達から選出された議長による議会運営（進行）と質問体制、質問内容であり、令和4年第12回では再質問の議員（生徒）が3人もいたと聞き、本職顔負けであると感じたと共に、生の実体験が子供達にとっても実践的な学習になると思えた。

- (2) 輪島市における子ども議会の取組は、平成10年に当時の市長の政策に関する広報、広聴の一環として実施し、以後、令和元年まで21回実施されたが、令和2年以後はコロナ禍により中止しており、開始当時の市長が交代したこともあって、教師の働き方改革も視野に、あり方を含め、見直しを図る観点もあり、本年度も実施されていないとのことだが、21回もの開催実績がある中での継続中止は部外者から見ては残念に感じた。

開催時の内容として能登町と大きく違うのは、夢を語って欲しいとの趣旨から対象者が小学生に限定されていたこと。中学生以上は良くも悪くも要望が現実的過ぎるからとの理由であった。とはいえ、配布された令和元年度子ども議会各小学校選出議員質問一覧を拝読すると、質問・提案内容にはかなり現実的な要望も含まれていた。特筆すべきはそれらの質問、提案（要望）により実際に執行部が取組み、実現された提案もあったということは驚きと感動であった。

付け加える点として、今回の視察でお世話になった議会事務局の職員の方が、議会に関することはもとより、庁舎内に展示されている著名な方々の輪島塗等の作品についてや、伝統工芸に関すること、また、町に関すること全ての事柄に精通しきっていて、なにを尋ねても的確かつ詳細な説明がなされ、郷土愛と共に強い向上心と高い知性が感じられた。

視 察 報 告 書

報告者氏名 加藤 啓子



1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

(1) 能登町「子ども議会について」

流山市議会でも高校生議会を開催したことがあるが、議会からの提案に高校が応じた形での開催であり、能登町としては、授業の一つとして教育委員会が企画運営する形で毎年行われている状況であった。従って継続性があり、反省を活かして、工夫されてきた。特に早い段階で政治に触れることで、自分たちの生活が政治の決めごとで成り立っていること、自分たちが興味を持つことで変える力も持っていることを理解することは、次世代に繋ぐ政策を形成する上で、大変有意義なものとなっている。

今後、流山市においても、中学生の傍聴にとどまらず、中学生議会を授業の一貫としてとりいれていく事は喫緊のテーマであると考えます。子どもたちの政策提案制度もあるのに使用が少ない点を遺憾に思っていたが、まずは、そのような制度があることも周知し、議会で質問したことを、形にしていける導きを教育に取り入れていくことを課題としたい。

(2) 輪島市については体調不良により欠席のため、報告無し。

視 察 報 告 書

報告者氏名 小田桐 たかし 

1 委員会名
議会運営委員会

2 期 日
令和4年11月10日(木)～同11日(金)

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町
「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市
「輪島の未来を考える子ども議会について」

4 所感等

■石川県能登町「子ども議会」「議会ICTの導入推進」
子ども議会については、行政と議会との二人三脚で実現され、
様々な課題をクリアーし、10回以上開催し続けている努力に、
まず感銘を感じる。

同時に、町の課題を中学生の感覚でとらえ、共有し、課題に
対する視点を一緒にする努力は、大人の都合による行政運営や
大人の都合(言い訳)に対する鋭い課題的となっていると思わ
れる。

本市でも、以前議会主導で高校生議会を実施したが、中学生
も含め、子ども議会が定着し、子どもの視点を改めて見直すこ
とで、将来を託すべく子どもたちにとって、市政が身近な存在
になることが大変有意義だと考える。

「議会ICTの導入推進」については、大変分かりやすい説明であった。しかし、議員の質問の質、議案審査の質の向上という点では、ICTの導入がメリットになるとは深めることができなかった。

■ 石川県輪島市

体調不良のため、欠席した。

視 察 報 告 書

報告者氏名 森 亮二



1 委員会名

議会運営委員会

2 期 日

令和4年11月10日（木）～同11日（金）

3 視察地及び調査事項

(1) 石川県能登町

「子ども議会について」

(2) 石川県輪島市

「輪島の未来を考える子ども議会」

4 所感等

●能登町議会：議会姉妹都市である能登町が行う「子ども議会」を調査した。

当市議会でも高校生議会を実施経験があるが、単発のイベント的な取り組みで終わってしまっている。公職選挙法が改正され、選挙権年齢が18歳に引き下げられた中、未来を担う子どもたちに対して、政治はどのようにアプローチしていくかという視点はもっとも重要である。

能登町の取り組みによれば能登町立中学校に在席する生徒が全校から集まり、議長まで務められる仕組みは素晴らしいものと思いました。一般的な子ども議会はいわゆる質問者の「議員」役を務めるものが多く、議会のもつ公平中立に議事進行を行うという組織が持つ特性まで踏み込んでいるケースは少ないもの。能登町のように、議長を担うほか、正副町長をはじめ行政関係者も数多く参加しているところは、全員参加型の子ども議会であり大変参考になりました。

なおもう一つの項目であった「タブレット端末の導入」についても大変に参考になる内容であった。事務局職員からのアドバイスとして「導入段階で押さえていくべきポイント」はどれも非常に説得力があるものであり、また議論が停滞している本市議会において欠如しているものが多かった。導入のメリットがいかに議員各位そして執行部にもあることをしっかりと共有し、議論を前に進めていくべきかと整理することができた。大いに参考にしたい。

●輪島市：輪島市の「輪島の未来を考える子ども議会」は平成10年から始まった（現在はコロナ禍ということと、市長が交代したことで中断しているとのこと）。これは当時の市長の選挙での公約であったとのことである。教育に関する公約を掲げる方は多いが「子ども議会」開催を掲げる候補者は案外少なく、市長の思いを感じるところである。また「未来を考える」というところで、小さな地域課題ではなく、将来の輪島市について語っていただくことを願ったことも、素敵なことと感じた。もちろん教育委員会的にはあまり突拍子もないことを質問されないように、事前にレクをしっかりとったとのこと、政治家と行政職員の立場の違いを覗き見れたところは、視察ならではのと感じた。

私としては中学生なので「教育や学校運営に関する質問」が多くあることも期待したが、結果的には何もなかったとのことであった。輪島という地域性もあり「観光」に集中した傾向はとても印象的である。未来を担う子ども達であるため「教育」にも触れて貰えるとさらに魅力的なものと感じたため、今後当市で取り組む際には、今回の視察での学びを生かし、上手な仕組みづくりやスキームを考えたものを作り上げられたらと感じている。